

2022年1月9日

主の洗礼の主日

菊地功大司教 メッセージ

主の洗礼を記念するこの日、イザヤ書はバビロンで捕囚の時を過ごすイスラエルの民に対して、苦難ののちに訪れる神による解放の恵みを語ります。捕囚の苦難を耐え忍ぶことで、「彼女の咎は償われ」、「罪のすべてに倍する報いを主の御手から受けた」とイザヤは記します。

パウロはテトスへの手紙で、わたしたちの救いは、「キリストが私たちのためにご自身をささげられた」ことを通じて「あらゆる不法から贖いだし」たことによって与えられた恵みであることを強調します。そして「この救いは、聖霊によって新しく生まれさせ、新たに造りかえる洗いを通して実現した」と記します。わたしたちの救いは、私たちが正しさによって義と認められて与えられたものではなく、徹底的に神からの恵みであり、神ご自身の苦難を通じて与えられ、それが水と聖霊による洗礼によって実現したことを明確にします。

ルカ福音は、公生活を始めるにあたって、イエスが洗礼者ヨハネから洗礼を受けたことを記しています。ヨハネ自身が明確にするように、その水による洗礼は罪の赦しの象徴であって、主ご自身が与える聖霊と火による洗礼とは比較にならないものであります。しかし主ご自身は、人間となられ私たちとともに歩まれる意思を明確にし、またそれがわたしたちの罪を背負って歩まれることを明確にするために、公生活の始めにヨハネの洗礼を受けられました。

その行為を完全に祝福するように聖霊が鳩のように降り、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適うもの」との御父の声が響き渡ります。イエスの人生が御父の御旨に完全に従うものであり、同時に私たちとともに歩まれ、自らの意思ではなくすべてを捧げ尽くす犠牲の生き方を通じて、人類の救いという恵みを与えられる道を歩まれることを明確にする出来事です。

主の洗礼は、主イエスの人間としての歩みを方向付ける、重要な意味を持っています。その苦しみを通じてわたしたちを贖ってくださった主は、同じ道を歩むようにと、わたしたちを招かれます。他者のために捧げる苦しみを通じてもたらされる、救いの恵みに与るようにとの招きです。

私たち「信じるものは洗礼によってキリストの死にあずかり、キリストとともに葬られ、復活します」(カテキズム1227)。キリストに従うわたしたちは、この人生をどのように生きていくのでしょうか。

わたしたちが今ともに歩んでいるシノドスの道は、まさしく主がともに歩んでくださる道程です。この道程の中で主は、わたしたちが「不信心と現世的な欲望を捨てて、この世で、思慮深く、正しく、信心深く生活するように」招いておられます。

準備文書にいくつかある分かち合いの手引きとしての設問の第五番目には、こう問いかけが記されています。

「わたしたちは皆、宣教する弟子であるので、洗礼を受けた一人ひとりはいかにして宣教の主人公として呼ばれるでしょうか。社会での奉仕に取り組むメンバーを、共同体はどのように支えているでしょうか。彼らが宣教の論理でこれらの責任を生き抜くのを、皆さんはどのように支援していますか。宣教に関連する選びについての識別はどのようになされていますか、また誰がそれに参加していますか。」

洗礼を受けたわたしたちは、自分自身のために生きているのではなく、キリストに倣って、キリストのために生きています。今一度、それぞれの生き方を振り返り、ともに歩まれる主に従う決意を新たにいたしましょう。